



目次

巻頭言	1
全連退第2回理事会報告	1
県退職校長会研修会報告	1
全連退東海北陸地区協議会報告	2
地区退職校長会だより	2
生き生きライフ	2・3・4
学校支援・社会貢献活動紹介コーナー	4

題字	高橋由美子 (元 岡崎・山中小) 29年度入会
タイトル デザイン	野田光宏 (元 岡崎・竜海中) 27年度入会

春風に向かって

副会長

松山基紀



昨年、退職後のボランティア活動の実態を知るべく「学校支援・社会貢献に関するアンケート」が実施された。

その結果を見ると、安全パトロール隊、放課後子ども教室、地域学習支援事業講師など、実に多くの方が多種多様な社会貢献に携わってみえることが分かった。

さて、私は、といえば、退職後十年が過ぎようとしているが、未だ教育新聞や地元旅行会社社に勤務し、学校支援はおろか、社会貢献もほとんどできていない状況である。

わずかに地域・社会との関わりを保っていることといえ、町内神社の末席の氏子総代と、名古屋法務局の人権擁護委員ぐらいである。

この人権擁護委員の活動はなかなか大変で、活動時間を確保するのも苦勞が多く悩ま

しいものであるが、反面、世の中で起こる様々な事件や状況を「人権」というフィルターを通して見ることで、勉強になることが多い。

例えば、昨年の台風や大雨の時、避難所でホームレスの方の受け入れが拒否されるという問題が生じた。人権という観点からするとホームレスの方の受け入れ拒否は、大問題であることに間違いはない。

しかし、避難所が学校で、「もしも自分が管理者だったとしたら」、どのような対応をしていただろうか。深く考えさせられるテーマであった。

社会貢献は、学校や地域・社会にとっても大切なことであるが、自分の生き甲斐にも繋がる人生の重要な柱である。教員として校長として培ってきた多くの経験を生かすことのできる絶好の場である。

年齢を重ね体力も気力も脳力も少しずつ低下していくが、どんな形であれ地元貢献することによって生きてきた証になるのではないだろうか。横断歩道で旗を持つのもよし、車椅子の人を手助けするもよし。

春風も近い。大いに社会に出よう。春風に向かい、よどみない命を力強く生きよう。

全国連合退職校長会

第二回理事会報告

会長 大久保 慎一

九月三十日、きゅりあん（品川区立総合区民会館）において、本年度二回目の理事会が開催された。

午前中は、「文部科学省・厚生労働省・総務省に対する要望書」の提出とその説明。文部科学省・初等中等教育局長との懇談会報告。さらには各部・各委員会の活動状況等が示された。会員の減少が喫緊の課題となる中、全連退の精力的な事業展開。そして何より明確な成果が必至となってくる。

午後は、八グループに分かれての「情報交換・課題」に対する協議が行われた。

協議の中で共通していたのは、会員の通減傾向をどう食い止めるかであった。魅力ある事業の展開。学校支援・地域貢献の充実。会費の見直し。さらには現職時から準会員として連携し、退職後の入会に繋ぐ案なども示された。

今後、再任用や定年延長を始めたとする退職校長の環境がますます多様化してくる。組織を継続・発展させるための課題は複雑化を増してくる。

県退職校長会

研修会報告

八月一日、愛知県教育委員会義務教育課長の伊藤克仁先生を講師にお招きし、県退職校長会役員を対象に「義務教育に関する今日的課題」と題したご講話をいただきました。

すべての児童生徒に「わかる授業・楽しい授業」の実現に向けて、①新学習指導要領全面実施に向けての現状、②いじめ・不登校・児童虐待等の生徒指導の課題と対応、③外国人児童生徒教育に関わる対応、④教員の働き方改革への取り組み等、わかりやすく説明していただきました。

最後に大久保慎一会長がお礼とともに「現職の校長会と意思疎通を図り、その意向を大切にして退職校長会の活動を進めていきたい」と語られ、研修会は終了しました。



全国連合退職校長会 東海北陸地区協議会 愛知大会 報告

副会長 榎岡 譲

十一月七日・八日の両日、全連退「東陸愛知大会」が岡崎ニューグランドホテル（岡崎市）で開催された。

大会には、他県から橋本誠司全連退常任理事、川合俊平東陸会長を始め十八名。愛知県から大久保慎一実行委員長始め二十一名が参加した。

初日は、本県が提案した二つの課題、①組織の強化・活性化、②学校支援・地域貢献について協議した。

始めに各県からそれぞれの地域事情を踏まえた取り組みが報告され、その後、意見が交わされた。とりわけ、組織の強化については、退職校長会の根幹に関わる問題であり、諸活動を円滑に実施するための最重要課題との認識で一致した。

そんな中、本県退職校長会の構成、すなわち退職後七年間を会員とし、会費等も入会



時に一括納入する方法に大きな関心が寄せられた。

事業を確実に実施するためには、会員の確保は必至であり、特に新入会員の入会率は重要な視点となる。

また、学校支援・地域貢献については、他者への奉仕だけでなく、退職校長が生きがいをもって生活していくために、組織としてどう取り組んでいくべきかが、課題として浮き彫りになった。

最後に全連退への要望・意見を各県から出し合い、協議を終えた。

続く懇親会では、本県会員が生き生きと「学校支援・地域貢献」に取り組んでいる姿として、岡崎の音楽グループ「ヒマナシスターズ」の演奏と豊田市四郷地区の「棒の手」の演武を披露した。

また、二日目の教育視察は、徳川家康ゆかりの大樹寺・八丁味噌・岡崎城址の伝統文化に触れた半日となった。

尚、次年度は十一月五日・六日の二日間、福井県で開催される。

地区退職校長会だより

県内の地区退職校長会から、たよりをいただきました。互いの理解と親睦を深めるため、順次紹介していきます。

西春日井地区退職校長会

「西春日井地区退職校長会」は平成七年に西春日井郡退職校長会として発足しました。平成十七・十八年に七町が清須市・北名古屋・西春日井郡の二市一郡となりましたが、地区としては継続して組織し、現在に至っています。

本会は、公立小中学校長の職にあつた西春日井地区在住者および、地区で小中学校長であつた地区外在住者をもって組織しています。現在の会員数は百六十三名です。

本会の目的は、会員相互の旧交をあたため、併せて地区の教育振興に寄与することです。そのために、①会員相互の親睦を図る、②現職校長会および教育諸団体と提携して地区の教育の充実発展を図る、③関係団体と協力して会員福祉に努めることをしています。

主な事業としては、総

日本語学校で経験すること

26年度入会 大嶋 和明
(元 名古屋・明治小)

最近、コンビニに行くと、レジにいるのは外国人が当たり前で、たまに日本人だどびっくりする。それぐらい外国人を見かけることが多くなっている。退職して六年になり、現在、外国人留学生に日本語を教える日本語学校で校長を務めている。留学生たちは、日本での進学を目指して、アルバイトをしながら、日本語学校で二年または一年半日本語の勉強を頑張っている。

仕事の関係で、この歳になつてから初めて経験することも多い。学生募集のためにベトナムやネパールにも初めて行った。ハノイやカトマンズは、自分が子どもの頃の日本の



校外学習 伊良湖岬にて

ように、信号は少なくバイクが道路を埋め尽くし、舗装がはがれて埃っぽいのが活気に溢れていたのが印象的であった。また、学生をはじめ外国人と話す（日本語ですが）機会も多く、日本人との根本的な考え方の違いに戸惑いながら刺激を受けている。

日本語学校は「学校」と言っても、文科省の管轄ではなく、これまで自分が勤めてきた学校とはずいぶん違う。例えば、日本語学校の教員は、日本語を教えるための資格は必要だが、教員免許は必要ない。授業中の学生とのやり取りなど不十分な点も見られ、授業としてどうなのかなと思うことがある。先生たちや学生のためにも、学校らしい学校にしていきたいと思う。

あと何年日本語学校で勤めるか分からないが、これからも元気で、いろいろな経験をしながら見聞を広げていきたいと思う今日この頃である。

仕事↓ご褒美Ⅱ爽やか！

27年度入会 森 乙平
(元 春日井・中部中)

「体は、動かせば動かすほど強くなる」と信じている。そうだ、体を動かす仕事をしよう！

六十四歳の春、あるスーパーマーケットのパート職員に応募した。週五日程度・午前中の勤務となる。

仕事はかなりハード。調味料などの運搬・補充・陳列。両膝を床に付けての作業と、精一杯の背伸びをしての作業の繰り返し。駐車場からのカート回収。半日勤務しての歩数は約八千歩。

入荷日は、塩袋（二十kg）や砂糖袋などの荷下ろしが加わり、更にハード。

体を動かす仕事をしていて嬉しいことは、①メタボが順調に改善していること。②僅かですが給料をいただけること。

一番
良いこ
とは、
ご褒美
として、
妻との
旅行と、
その旅行先での外乗！。



屈斜路湖にて

外乗馬はおとなしいので、気持ちよく走ってくれる。爽やか!!

楽しい平日ドライブ

28年度入会 戸田 守彦
(元 豊橋・野依小)

三年間の再任用勤務を終

え、四月から「毎日が休日」である。朝のゴミ出しから、家事手伝い・見過ごしてきた断捨離・草木の世話他、やるべきことは少なくない。

楽しみの一つにしたのが、今までできなかった「平日ドライブ」である。天気の日を選んでの低山登山、インスタ映えで有名な「モノの池」、雪

渓流の西穂高、高山植物が花盛りの伊吹山、今までの最長ドライブとなった長野県北部（戸隠・小布施・善光寺）。高速料金の割引はないものの、天候や人出の少ない観光地はゆったりとした気分が自然や文化財に触れることができる。

十月十二日から十三日にかけて台風十九号が、八月末に訪れた北信地方の千曲川洪水を引き起こした。リング・ブドウ園が広がる豊かな堤防近くの元氾濫原が泥水に覆いつくされてしまった。小布施

は、北斎や一茶が晩年の一時期を過ごした地でもある。私はこの地での好き酒に満足し、千曲川沿いを走る長野電



パワースポット戸隠奥社

鉄では思わずうたた寝をしてしまった。

災害報道の続いた今秋の日本。被災地の復興を願いつつ、伊勢湾台風や高度経済成長期以前を知る私たちこそ、防災・共助他に関わりたい。

六十歳からの変身！

29年度入会 浅野 京子
(元 東海・横須賀中)

退職してから三年が過ぎ、学校現場から離れた生活のリズムにようやく慣れてきた。

初めは、満員電車や人混みを歩くことに疲労困ぱいしていたが、最近では、我ながら身のこなしが軽やかになった。さらに、自宅から職場までの往復の徒歩が、適度な運動になっているのか、現役中、急に襲ってきた膝の痛みが全くなくなるというおまけまで付いてきた。

退職後すぐに庭作りや魚の飼育という趣味と出会い、今では、草花や魚との対話が毎日の楽しみともなった。

不安一杯で挑戦したイカ釣りには、逆にハマった。初挑戦の日は最悪の天候で、転覆寸前の状況の中、真夜中から早朝まで船酔いすることも忘れ、黙々と釣り続けた。誘ってくれた方に「根性と集中力

は抜群だ」との褒め言葉をいただき五十三杯の釣果を得た。次なる目標は、タイ、ハマチ、イサキ…。

スマホに切り替え、五十代前半の教え子たちに押し切られライングループに仲間入りした。ライン上では、中学生のままの彼らとのやりとりで心とまされる。職場の人に誘われてペイペイも始めた。スマホ貯金の感覚で面白い。

向き、不向きを考える前に前向きに何にでも挑戦し、変身している自分がいる。

無趣味

30年度入会 橋本 雅弘
(元 名古屋・春日野小)

私には人に語れる趣味がない。問われると、退職時に末娘が高校生であったので子育てだと話してきた。

今問われても、仕事ではなく楽しみとしている事や、自分への褒美のような時間の過ごし方を見つけていない。

私は社会福祉法人が運営する児童保育所に就職した。補助金を受けられないここでの経営には、学校経営での経験を濃縮したようなものが求められると感じている。

働く保護者の支援が大きな役割とはいえ、安心・安全の

上に満足感を得ていただくには日々の業務だけでなく積極的に魅力を発信し、需要に敏感であることが必要だ。

また、学校でも家庭でもがらばる子どもたちの居場所づくりは骨の折れる仕事で、人材が育つのを待っていられる余裕はない。

法人にはサムエル・ウルマンの詩『青春』が掲げられ、六十歳を過ぎても人は青春でありうると書かれている。

目の前の課題を一つ一つ解決していくと何か知らないことが見つかるのではないかと興味や、自分を奮い立たせてくれる驚きと出合えるのではないかと思っている自分に気がつく。

いまだに私は青臭いことを言い、無趣味のままである。

「読書」からの楽しみ

元年度入会 中村 則夫
(元 豊橋・吉田方中)

「本は、ここではないどこかに通じる道である」、これは、著名な作家「三浦しをん」さんの印象的なことばです。

今、日々の楽しみは読書です。床から天井までの壁面を占領する本棚には、見た目も幸せ「積ん読本(未読の本)」安定至福「取っとく本(再読



私の本棚

予定の厳選本)、待望「お気に入り作家の新刊本」などが並びます。

そして、読書をきつかけに、新たな楽しみが増えていきます。

退職して始めたラインでの「読書評交換」は、同好の士の「飲み会」に発展し、ここでの素敵な話題から「映画鑑賞」「旅行」等々の趣味をより楽しめるようになりました。

映画は、先に原作を読むと、場面をどう映像化するのか、登場人物の配役(俳優)は誰なのかなど興味が増します。旅行は、観光地を題材にした本を読めば関心がさらに広がります。春先に読んだ「京都本大賞」の歴代受賞本でイメージを膨らませ、四季折々の京都旅行を企画し楽しんでいきます。

私の読書傾向「猫・料理・旅・妖し・歴史・神話」は日々広がり、新たな楽しみへの「道」に案内してくれます。

学校支援・社会貢献活動紹介コーナー

本号より「学校支援・社会貢献活動紹介コーナー」を新設しました。会員のみなさんの活動をぜひご紹介ください。

花祭を通じた

子ども支援

30年度入会 佐々木 尚也
(元 北設楽・設楽中)

七百年の歴史をもつと言われる花祭の舞を指導している。初めて花を舞う二、三歳の子どもから神鬼などの重要な役鬼を舞う大人まで、練習は七日間行われる。

中でも大切にしているのが、初めての子どもから湯囃しを舞う中学生までの年齢の子どもである。嫌にならないように配慮しながらも、舞の型が崩れることのないように、優しく、時に厳しく、自信をもたせながら教える。やつて見せて、言つて聞かせて、させてほめる。それを粘り強く繰り返す。一年ごとに上の舞に取り組むため、成長に応じて、求める内容は高度で複雑になっていく。

舞の手順や技能だけでなく、祭りを繋いでいる自覚と自負、取り組んでいることへの自信と、毎年課せら



れる新しい課題を乗り越えた達成感を味わわせたい。そして、花祭を生活の一部にして逞しく生きる人になってほしいと願う。

少年の頃、上手な舞い手は憧れの的であった。勉強や運動が達者であることに勝るとも劣らぬ価値あることだった。そうした優れた大勢の先輩に育ててもらって、現在の自分がある。

毎年、年末から正月にかけて、わずか数時間の触れ合いである。それが十年以上積み重ねられることで、人育ての営みとなる。こうした営みが続けられてきた地に育ったことと、そこに参画できる嬉しさを噛みしめている。

訃報 (内はご逝去された日)

伊藤 毅先生 (元・八三)

元 刈谷市立富士松南小学校校長

岡部克彦先生 (元・十一・十七)

元 岡崎市立六ツ美北中学校校長

村松久之先生 (元・十二・二十九)

元 設楽町立田口小学校校長

令和元年六月十七日から十二月三十一日までにご逝去され、事務局に報告があった七年会員の方を掲載しました。

事務局だより

ご多用の中を、原稿の執筆にご協力いただきました多くの皆様に心より感謝申し上げます。皆様のご協力により、予定どおり会報を発行することができました。

これからも、会員の皆様に喜んでいただける会報になるよう、努めてまいります。今後とも、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

この度の会報より、奇数号に「学校支援・社会貢献活動紹介コーナー」を新設させていただきます。偶数号には従来どおりの「会員交流広場(会員の作品紹介)」を掲載させていただきます。

愛知県退職校長会事務局

名古屋市中区新栄一丁目

四九番一〇号

愛知県教育会館六階

愛知県小中学校長会事務局内

TEL 〇五二一六一一八二五

FAX 〇五二一六一一六八〇七

E-mail aikochin@axel.ocn.ne.jp